

国際会計基準産学で学習

南山大大学院MBAの研究プロジェクト

国際会計基準の適用の行方に注目が集まっている。南山大学大学院ビジネス研究科ビジネス専攻(MBA)は、地元上場企業の経理関係者らと国際会計基準の勉強会「国際会計基準研究プロジェクト」を立ち上げた。金融庁から今年6月に公表された中間報告で、今後、上場企業への適用が確実となるため企業側への影響も大きいものの、どう運用されるかなど実態が見えづらいことがネックになっている。同プロジェクトでは、産学一体で理解を深めている。

(今井隆二)



研究プロジェクトの勉強会

地元上場企業が参加

年から実際の適用が始まることになる。

これに対し、同大の大学院ビジネス研究科ビジネス専攻の白木俊彦教授、岡田昌也准教授(太陽ASG有限責任監査法人マネージャ)らが勉強の必要性を呼びかけ。同時に企業側でも対応が必要という認識が高まり、プロジェクトがスタートした。参加企業は、トラスト、住友電装、Vホールディングス、スギ薬局、ウッドフレンズ、カゴメ、サン電子、ブロンコビリー。

岡田准教授は「IFRSは、細かく物事を指定しておらず、概念を示したものが、その判断基準は企業側に委ねられており、これまでとは考え方が

日本や米国は、これを運用している。

になって日本も金融庁で時期について「強制

まで独自の会計基準を 昨年8月、米・証券取の中間報告によって、適用の是非を含めた判断を2012年までのか見えづらいうが早めに対応していくことも重要」としている。

EUも「IFRS」と014年からIFRSでIFRSの適用は確

呼ばれる国際会計基準の適用を決めた。今年実となった。そのなか